

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 10 月 7 日現在

機関番号：34524

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23500828

研究課題名(和文) 産業保健師がワークファミリーコンフリクトケアを行う上で必要な力量形成に関する研究

研究課題名(英文) Research on the practice of Work-family conflict Care by Occupational health nurses

研究代表者

久井 志保 (Hisai, Shiho)

兵庫大学・健康科学部・准教授

研究者番号：30434963

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の結果、産業保健師のワークファミリーコンフリクト(仕事と家庭の両立葛藤)に対する認識は低い健康相談などの業務を通して実践をしている割合は高い一方で、関わり方に戸惑いを感じ知識や技術の必要性を感じていた。本研究を通して、ワークファミリーコンフリクトケアの実践能力の高さと産業保健師としての実践能力の高さが関連しており、ワークファミリーコンフリクトケアの実践力を向上させるためには産業保健師としての力量形成が不可欠であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：There are few people knowing the work family conflict in the Occupational health nurse. However, there are many people who experience it by playing a role as the health consultation, then, they feel puzzled over approach and felt knowledge and the technical need. Through this study, I understood that the ability formation as the Occupational health nurse was indispensable.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：ワークファミリーコンフリクト 産業保健師 メンタルヘルス 健康相談 家庭 職場

1. 研究開始当初の背景

近年、我が国では経済や産業構造の変化、職場環境に対する不適応、コミュニケーションの希薄化などが社会的な課題となっている。そして業務に起因したメンタルヘルス不調は、労災や企業の社会的責任の観点からも喫緊の対策が望まれている。厚生労働省は、“職場におけるこころの健康づくりの指針”の中で、事業者は“家庭・個人生活等の職場以外の問題に留意すること”を重要視し、「心の健康問題は、職場のストレス要因のみならず家庭・個人生活等の職場外のストレス要因の影響を受けている場合も多い。また個人の要因等も心の健康問題に影響を与え、これらは複雑に関係し相互に影響し合う場合が多い。」と提示している。特に働く女性は、仕事と家庭の両立に苦慮している現状があり、これらの援助には、仕事要因と家庭要因の2つの役割葛藤によるワークファミリーコンフリクト(以下、WFC)についての認識が非常に重要である。また各事業所において、徐々にメンタルヘルス対策のシステム構築は進んできているが、メンタルヘルス相談に対する技量は、相談担当者各自の技量に委ねられており、対応のばらつきが生じているという課題もある。これらの課題から、産業保健師がメンタルヘルス対策に関わることは社会的なニーズが高く、産業保健師のWFCケアの力量形成を目指すことは非常に重要である。さらに、本研究は保健師の専門性の確立を目指すうえでも有用であると考えた。

2. 研究の目的

産業保健師がWFCケアを行う上で必要な力量形成を目標に、「産業保健師が行うWFCケアの実践内容を明らかにすること」、「産業保健師が行うWFCケアを提示すること」を目的とした。

3. 研究の方法

1)【2011年度：ステップ1】

産業保健師が行うWFCケアの実態調査；
産業保健師の業務やWFCケアに関する文献検討、産業保健師を対象に質問紙を用いた実態調査を行う。

2)【2012年度：ステップ2】

WFCケアの力量形成に必要な教育プログラムの検討；
ステップ1で明らかにした実態からWFCケアの力量形成に必要な要素を抽出し、WFCケアの力量形成に必要な教育プログラムの内容を検討する。

3)【2013・2014年度：ステップ3】

WFCケアの力量形成に必要な教育プログラム検討開発；
ステップ2で検討した、WFCケアの教育プログラムの有効性について、産業保健師から意見を聴取し、その意見を活用して開発を行

う。また本研究の結果を学会発表し、広く意見を聞く機会を設ける。

4. 研究成果

【2011年度】

先行研究の分析を実施した結果、WFCについての先行研究は国内外で入手することができたが、WFCケアについては入手することが出来なかった。そこで、実態を把握する目的で産業保健師を対象とした調査を実施した。有効回答数175のデータを入手することができた。

【2012年度】

2011年度に実施した調査結果を分析し、学会発表(日本産業衛生学会、近畿産業衛生学会)、および論文投稿を実施した。

【2013年度】

前年度に引き続き、データの分析を行い、更にWFCとソーシャルサポートに関しても調査を重ね学会発表を行った。

【2014年度】

これまでの研究の結果から明らかになった産業保健師によるWFCのケアについて、産業保健スタッフを対象に講演を実施した後、アンケートを実施した。その結果、WFCの認知は低いこと、その一方で職場からの対応の需要があることなどが明らかになった。

【主な研究成果の概要】

「産業保健師のWFCケア実践に関する研究」
目的

本研究は、産業保健師によるWFCケアの教育プログラム構築に向けて、ケアの実態を明らかにするとともに、ケアに関連する要因について検討を行うことを目的とした。

方法

産業保健師を対象に、個人特性および先行研究をもとに抽出された項目(WFCケアに関する知識、姿勢、態度、保健師の専門能力)について、郵送式自記式質問紙調査を実施した。

対象は日本産業衛生学会所属の保健師とした。名簿使用にあたっては日本産業衛生学会の審査を受け許可を得て使用した。

倫理的配慮として、無記名であること、自由参加であること、個人が特定されることはないこと、得られた結果は統計学的に分析することなど記載した説明文を同封した。また、調査は大学倫理審査委員会の承認を得た後に実施した。

結果

有効回答175名から得られたデータを分析したところ、WFCケアに対する認識は低いことが、実践経験があること、家族や社外の関係

者についてはあまり実践されていない、などの実態が明らかになった。

さらに、WFC ケア経験者と非経験者の 2 群にわけて分析したところ、経験群は非経験群よりも WFC に関する知識が豊富で、かつ、WFC に対する積極的な介入を行っていることが明らかになった。

考察

<産業保健師による WFC ケアの現状>

研究の結果から、産業保健師の WFC に対する認識は 13.1%と低く、WFC という認識が浸透していない現状があることが明らかになった一方で、WFC ケアの実践経験があると回答した産業保健師は 76.6%と高率であり、認識と相談経験の有無によって有意差は見られなかった。このことから WFC ケアは産業保健師自身の認識によって意識的に実践しているのではなく、保健活動の実践の場で必要性があり、求められて提供しているということになっていることがわかった。

<WFC ケア経験者と非経験者の比較から見た WFC ケアを実践する産業保健師の特徴>

[個人特性]としては、企業所属者の方に WFC 経験者は多かった。企業所属の場合、人事労務部門と密接に関わることが多いため、WFC ケアに携わる機会が多いと考えられる。

[WFC に関する知識]については、経験群の方が非経験群よりも幅広く豊富な知識を持っていることが明らかになった。

[メンタルヘルスに関する知識]の把握は 2 群とも高い値であったことからメンタルヘルスケアの実践が業務として非常に重要であるが、WFC ケアを経験したものはメンタルヘルスケアの実践についても積極的に行っていることが明らかになった。

WFC ケア経験群の特徴は、1)人事労務部門との関係づくりができている 2)WFC に関する知識が豊富である 3)組織の一員という立場と専門職としての立場のバランスをとろうとする姿勢である 4)行動力や創造力を主体的に発揮する態度である 5)コミュニケーションやカウンセリングスキル、看護技術スキル、計画力、連携や調整力、リーダーシップ、アセスメント力、情報収集力といった保健師の専門能力が高い、と分析された。

<産業保健師が WFC ケアを実践するうえでの課題>

実践者の特徴として「豊富な知識」「主体的な行動力」がみられた。「制度や法律」「社会資源」などの幅広い知識を積極的に取り入れていく必要がある。また、技術面では「カウンセリング能力」「個人および組織をアセスメントする能力」などのスキルアップをしていく必要がある。「計画力」「連携や調整力」「リーダーシップ」などは、看護に関する

技術だけでなく、マネジメント能力を向上させていくことで身につく能力である。

今後 WFC ケアを発展させるためには、保健師教育の中で WFC に関する教育をしていくこと、実務者を対象に WFC ケアの知識を学ぶ機会や保健師の専門能力を向上させるためのマネジメント教育などの場づくりが必要であり、課題であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

1) shiho Hisai, Nobuko Matsuda, Syoichi Hasegawa: Research on the Practice of Work - familyConflictCarebyOccupational healthNurse, Bulletin ofHealthtSciences Kobe28, p. 15 - 29, 2013.

2) 久井志保: 産業保健師が行う WFC ケアの構造に関する研究、国際ナショナル Nursing Care Research13(12) p. 28 - 35, 2013.

[学会発表](計 3 件)

1) shihoHisai; Researchonthepracticeof Work - familyconflictCarebyOccupational health nurses, ACOH, 2014, FUKUOKA

2) 久井志保: 産業保健師の WFC に対する認知の実態について、第 22 回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会、2012、東京.

3) 久井志保: 産業保健師の WFC に対する認知についての研究～所属職場の特性からの分析、第 52 回近畿産業衛生学会学術集会、2012、和歌山

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

講演

久井志保: 職場内のストレスと職場外のストレス、兵庫県産業保健総合支援センター主催産業看護職研修会、兵庫県医師会館、2014 年 10 月

成果物

産業保健師のためのスキルアップハンドブック～仕事と家庭の両立葛藤(WFC)に対するケア、平成 27 年 3 月発行

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久井 志保

HISAI SHIHO)

兵庫大学・健康科学部看護学科・准教授

研究者番号：30434963

(2) 研究分担者

松田 宣子

MATSUDA NOBUKO)

神戸大学大学院・保健学研究科・教授

研究者番号：10157323

(3) 研究分担者

西内 恭子

(NISHIUTI KYOKO)

梅花女子大学・看護学部・教授

研究者番号：60404018